

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	空港・港湾アクセス道路 一般国道 151号 <small>いちのみや</small> 一宮バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	愛知県
起終点	自：愛知県新城市川田 <small>しんしるかわた</small> 至：愛知県豊川市麻生田町 <small>とよかわあそうだちょう</small>			延長	7.9km
事業概要					
<p>一般国道151号は、長野県飯田市から愛知県豊橋市に至る延長132kmの路線であり、南信州地域と東三河地域の交流を促進する幹線道路の役割に加え、新東名高速道路新城ICと重要港湾の三河港を結ぶ物流機能も担い、東三河地域における産業活動の活性化を支える重要な路線である。</p> <p>当該事業区間に並行する現道の沿線は、民家が多く立ち並び生活交通が多いことに加え、東名高速道路豊川IC、新東名高速道路新城ICと接続していることから、物流交通も多く慢性的な混雑が地域の課題となっている。</p> <p>このため、混雑の緩和と新東名高速道路と重要港湾三河港とのアクセス向上を目的とし、一般国道151号のバイパス道路を整備するものである。</p>					
H20年度事業化		S53年度都市計画決定 (H16年度変更)		H20年度用地着手	
H24年度工事着手					
全体事業費	約158億円	事業進捗率	約58%	供用済延長	— km
計画交通量	27,200台/日				
費用対効果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)
	(事業全体) 2.6	115/224億円		581/581億円	基準年
	(残事業) 5.1	事業費：109/218億円 維持管理費：5.9/5.9億円		走行時間短縮便益：535/535億円 走行経費減少便益：38/38億円 交通事故減少便益：7.8/7.8億円	令和4年
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=2.3~2.9 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=4.6~5.6 (交通量±10%) 事業費：B/C=2.4~2.9 (事業費±10%) 事業費：B/C=4.6~5.6 (事業費±10%) 事業期間：B/C=2.5~2.7 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=4.9~5.2 (事業期間±20%)</p>					
事業の効果等					
<p>新東名高速道路と重要港湾三河港とのアクセス性が強化され、物流の定時性確保が期待される。また、第一次緊急輸送道路に位置づけられており、災害時の緊急搬送、救援物資の輸送の確実性向上が期待される。</p>					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>地元豊川市より周辺道路の円滑な交通処理を図るため、早期整備促進の要望を受けている。</p>					
事業評価監視委員会の意見					
<p>事業継続を妥当と認める。</p>					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
<p>本事業区間は新東名高速道路が平成24年度に開通したことにより、国土軸である新東名高速道路と三河港を結ぶ重要な区間の一部となった。また、周辺地域には工業団地の立地が多数あり、周辺市町の製造品出荷額や三河港の貿易額は増加傾向にある。</p>					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
<p>用地取得率約45%、事業進捗率約58%</p>					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
<p>用地の取得を継続しており、今後は早期完了を目指し、改良工事等を推進していく。</p>					
施設の構造や工法の変更等					
<p>今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。</p>					

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。